令和４年度　授業改善推進プラン　　第５学年

【指導方法の課題と改善策】

教科	課題	授業改善策	評価
国語	・筋道立てて考えたり想像したりする力を養い、伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げること。 ・話し手の意図を考えて聞いたり、内容を正確に聞き取ったりすること。 ・筆者の考えに対する自分の考えをもつこと。	・思考ツール等を活用し、話の内容や考えが明確になるように事実と感想、意見とを区別しながら考えられるようにする。 ・ペアやグループで対話する機会を多く設け、話す力や伝える力・聞く力を高め、考えを深められるようする。 ・作者等の意図を考えながら読みを深めるために、登場人物の相互関係や心情、場面について自分の考えをまとめる学習をさせ、読み取る力を高める。	
社会	・複数の情報を踏まえ、それを理解した上で多角的に捉えて考える力を養うこと。 ・興味・関心をもって学習するとともに社会に見られる課題を把握し、習得した知識や技能を活用して課題を解決すること。	・各々が資料から読み取った情報を全体で共有し、最後にポイントの確認と共に、情報をもとに根拠を明らかにしながら自分の考えを表現させる。 ・課題をもち、その都度自力解決することで、知識の定着を図ったり、思考力を高めたりする。 ・学習した内容を日常生活に結び付け、社会事象への見方、考え方を養う。	
算数	・課題の内容を読み取り、順序立てて、解決方法を説明すること。 ・単位量あたりや、割合の意味を理解すること。	・思考過程を図や式、表などで表し、演算決定への筋道とその計算過程を論理的に考え、説明できるようにする。 ・既習事項を生かし、丁寧に学習する習慣を養い、線分図などの活用により、全体と部分、単位量や割合に関する感覚を身に付けさせる。	
理科	・実験や観察を行い、知識・理解の定着を図ること。 ・実験・観察から明確になったことを基に、考察すること。	・観察・実験の機会を多くし、内容を充実させ、日常生活に結び付けて考える場面を設け、知識の定着を図る。 ・予想、仮説、観察、実験の方法について段階的に指導し、考えたり、自分の言葉で説明したりする場面を設けることにより、論理的に考える力を養う。	
音楽	・学習に取り組む意欲に個人差があること。 ・楽器で演奏に対して苦手意識をもっていること。	・グループでの活動を取り入れながら、お互いに高め合えるように配慮する。リーダーが空回りしたり、人任せの子がいたりしないか注意をして観察し、声をかける。 ・小さな課題を少しずつ与えながら、いろいろな楽器にも挑戦できるようにする。	
図工	・友達の表し方を認め、友達と関わり合いながら制作すること。	・制作活動の中に、友達の作品を鑑賞する時間を作り、友達の制作した作品について、工夫を見付ける活動を取り入れる。良いところは自身の制作活動に取り入れられるようにする。	
家庭	・日常的な経験の有無により、裁縫や調理などの実習技能の定着を図ること。	・日常生活の中から問題を見出して解決方法を考える場面を設け、家庭の仕事に興味・関心をもたせる。そして、実践的な活動を家庭や地域に生かせるようにする。	
体育	・基本的な動きを理解し、その動きや技能を身に付けること。 ・関わり合いを通して取り組み方を工夫すること。	・動きのコツやポイントを共有し、明確にする。また目標をもって自分に合った練習に取り組み、スモールステップの中で段階的に身に付けることで達成感を味わわせる。 ・ペアやグループで学習活動を行い、児童同士積極的な関わりの中でアドバイスし合う場を設定し、よりよい動きを工夫できるようにする。	
外国語	・積極的に発話したり、対話しようとしたりして、英語での表現に取り組もうとすること。	・発音や発話の正確さを求めるのではなく、楽しんで取り組める活動や課題を多く設定し、自然に英語の理解が高まるようにする。	

＊年度末に、各改善策の達成状況について評価をする。↑